



ロータリークラブとは

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の影で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語りあって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは志を同じくするクラブが、次々各地に生まれ、国境を越えて今では世界166カ国(2003年9月現在)の

地域に広がり、クラブ数31,561、会員総数1,227,545人(2003年9月30日RI公式発表)に達しています。そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見てもロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。



日本のロータリー・葛生のロータリー

わが国最初のロータリークラブは1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織を作り、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミンズでした。その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。

現在、日本全体でのクラブ数は2,321、会員数110,656人(2003年2月末現在)となっています。また、栃木県内でのクラブ数は50、会員数2,169人となっています。

葛生ロータリークラブは1960年11月15日に世界で13,854番目のクラブとして創立され、同年12月21日に国際ロータリーから正式に加盟が承認されました。初代会長は吉澤兵左氏、当時の会員数は25名でした。現在では創立当初の約2倍となる48名の会員数を誇ります。

毎週火曜日に開かれる例会には30代から80代までの幅広い年齢層の会員が集まり、国際貢献や地元葛生町への貢献・奉仕活動について話し合いを行っています。

また、例会での話し合いを元に、クラブ内の各委員会が様々な奉仕活動への協力を実践しています。



葛生ロータリークラブ 会員名簿 (ABC順)

奥山 國之	相子光太郎
斉藤 誠司	馬場 俊一
斎藤 武	千葉 幸雄
酒庭 和一	江田 惣平
佐藤 勝	福島 秀治
島田 政	広瀬 常夫
島野 公良	飯田 力
関口 文雄	松本 清広
関口泰一郎	市毛 芳克
須藤 功一	石川 清
高美子 正	岩崎昇一郎
田沢 秀文	影澤 龍平
谷 和文	川田 直治
寺内 聖	川田 忠司
椿 俊一	小林 祥郎
坪内 馨	駒形 忠晴
八下田幸三	宮田 仁郎
八下田典雄	永井 成雄
横塚 信也	長島 徹
吉澤 浅一	中田 秀昭
吉澤 兵左	中田 英昭
吉澤慎太郎	新田 美
吉澤 俊夫	野部 栄一
立川 裕康	太田 哲夫
(名誉会員)	奥澤 松利

【発行】
葛生ロータリークラブ 広報委員会
委員長：永井成雄
副委員長：寺内聖
委員：江田惣平
〒327-0501
葛生町中央東1-12-11
橋足利銀行葛生支店内
電話 86-2181 FAX 85-3335



KUZUU

ROTARY CLUB NEWS

例会日 毎週火曜日
例会場 足利銀行葛生支店
栃木県安蘇郡葛生町
中央東1-12-11
電話 86-2181
特別号 発行日2004年3月30日

葛生RC会長テーマ「勇気を持って行動しよう」 福島秀治

副会長 関口 泰一郎 幹事 酒庭 和一 副幹事 中田 秀昭

目次

P1
ご挨拶
葛生ロータリークラブ会長 福島秀治
葛生町長 立川裕康

P2
葛生高等学校インターアクトクラブ結成

P3
会長エレクト研修セミナー
地区チーム研修セミナー
町内清掃奉仕活動
地域のクラブ活動を支援

P4
ロータリークラブとは
日本・葛生のロータリー

ご挨拶



葛生ロータリークラブ2003～2004年度 会長 福島秀治

ロータリーがアメリカのシカゴに誕生して本年で98年が経ちました。当時一人の青年が親しい仲間3人と共に地域社会のために始めた運動は、今日世界166カ国の地域にまで広がり、会員数122万人の組織にまで成長を遂げました。そして、今も世界の各都市で活発な奉仕活動が展開されています。

お陰様で葛生ロータリークラブも43年の歴史を重ねてまいりました。今日あるのも地域の皆様のご理解とご協力があるからこそだと思います。心から感謝申し上げます。

その中で、今年度、私は伝統ある葛生クラブの第43代会長を務めさせていただくことになり、今は責任の重さと共に大きな使命感を感じております。当クラブは現在48名の会員で組織されており、私達会員は職業を通じ、地域社会に奉仕すべく各方面で活動しておりますが、見渡すとまだまだ私たちの奉仕を待ち望んでいる人々がたくさんいることに気づきます。お互いに困っている時こそ助け合うことが必要ではないでしょうか。＊誰にでも、どこでも、必要な場所＊「手を貸そう」として「手を差し伸べる勇気を持つよう」と考えます。そこで私は、今年度クラブのテーマを「勇気を持って行動しよう」と掲げ会員一同、さまざまな分野で活動しているところで。

さて、昨年はクラブにとって大変嬉しいことがありました。青少年のための奉仕クラブが葛生高等学校(永井成雄理事長)に結成されたことです。名称は「インターアクトクラブ」といいます。会員数は64名で現在町の社会福祉協議会を通じて、ボランティア等の奉仕活動を積極的に展開しております。このことは生徒たちにとって、今は小さな奉仕かもしれない。しかし、生徒たちの未来に無限の可能性を与えることになることと信じています。

2年後は国際ロータリーが100周年となり、そして、葛生ロータリークラブも創立以来45周年の節目の年を迎えようとしています。今後とも会員一同、地域の皆様と共に奉仕活動を続けていきたいと考えておりますので一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



名誉会員 葛生町長 立川 裕康

ブルーとゴールドに彩られた歯削みのある車輪に、「Rotary International」と銘打たれたクラブ徽章を見ると、大半の町民の皆さんが「奉仕」の文字を髣髴させるのではないのでしょうか。貴クラブがそれだけ多くの奉仕や慈善活動を実践してこられたことの証明だと思えます。行政の最高責任者としてその究極の目標である住民福祉の充実に腐心するとき、ロータリアンの奉仕の精神とその実践に心から感謝するとともに、心強いエネルギーを頂戴するものです。経済低迷による地方財政の脆弱化は、ナショナルミニマムさえ保障できない状況を惹きつつあり、相互扶助や助け合いの精神を改めて真剣に考えなければならないときが迫っているように思います。

ご案内のように、安佐市町合併はこのような状況を少しでも改善し、住民の社会保障基盤を充実強化しようというのが本当の狙いであり、ロータリー精神を共有するところがあるとと思っています。

市町合併はいよいよ大詰めを迎えようとしております。安佐合併が貴クラブの諸活動にどのように影響するのか知る由もありませんが、引き続き地域住民のために特段のご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴クラブの益々のご発展を祈念いたします。



葛生ロータリークラブ



Lend a Hand 手を貸そう

2003～2004年度 国際ロータリーのテーマ

R.I.会長 ジョナサンB.マジアベ氏

手を貸そう

職場において、地域社会において、あらゆる場面で手を差し伸べていきましょう



葛生高等学校 インターアクトクラブ
結成認証状伝達式



インターアクターとロータリアンによる記念撮影

葛生ロータリークラブ活動報告①

葛生高等学校インターアクトクラブ結成 「インターアクトクラブ」とは

「インターアクトクラブ」とは「国際ロータリー」が提唱する青少年のための奉仕クラブです。奉仕と国際間の理解に貢献するため、世界親交を持って共に活動する機会を青年男女に与えることを目的とし、現在、全世界で百カ国以上16万5千人を超える会員を有する国際組織となっています。最初のクラブが結成されたのは1962年のことでした。アメリカのフロリダ州、メルボルン・ロータリークラブの提唱により、メルボルン高校内に結成されました。インターアクトが国際的になったのは、インドのダンジョレーロータリークラブ提唱したダンジョレーインターアクトクラブが認証された1963年のことです。それ以来この活動は急速に発展して、現在に至っています。

入会資格としては高校在学中の青年で、次のような資質を備えている若者ならば誰でも会員になれます。友人を作りチームワークを発揮することに喜びを抱く青少年であること。クラブのプログラムを企画するにせよ、地域社会を援助するにせよ、あるいは有意義なプロジェクトのために募金するにせよ、行動力を持って取り組める青少年であること。そして世界に対する知識欲が旺盛であり、国際理解を深めることに熱意を持っている青少年であること。以上の資質を有して会員となっている者は、他に喜びを与えることを通じて自分自身も喜びを感じています。

インターアクトクラブは、毎年少なくとも二つのプロジェクトを実行します。一つは学校および地域社会に奉仕すること、もう一つは国際理解を深め国際親善と世界平和を築き上げていくことです。

葛生高等学校インターアクトクラブ

結成認証状伝達式



記念講演 具志堅用高氏

去る6月14日(土)、葛生高等学校インターアクトクラブ結成認証状伝達式が、内外の関係者約500名を招き、あくどプラザ大ホールにおいて盛大に行われました。第1部の結成認証状伝達式では、厳粛な雰囲気の中、設立経過報告が行われた後、無事に認証状が伝達されました。第2部では元プロボクシングWBAJ・フライ級チャンピオンの具志堅用高氏をお迎えし、「やればできる。最後まであきらめるな!」という演題で、次代を担う若者に熱いメッセージとなる講演をしていただきました。第3部では祝賀会が行われ、会員相互が更に交流を深めることができました。また、ボランティア意欲に燃える若者たちとの触れ合いを通じて、我々ロータリアンも更に社会奉仕に邁進するよう、決意を新たにしました。

葛生高等学校インターアクトクラブ活動実績

- ①月2回の例会
- ②葛生ホーム慰問
(レクリエーション・清掃奉仕等)
- ③葛生小学校での読み聞かせボランティア
- ④独居老人への給食宅配ボランティア
- ⑤託児補助(エクボの会等)
- ⑥町内清掃奉仕作業・葛生駅ホームガム取り作業
(原人まつり・ふるさと祭り等)
- ⑦各種募金活動
(赤い羽根共同募金・ユニセフ募金等)
- ⑧県内各インターアクトクラブとの交流・研修
- ⑨ペルーとの国策交流活動
- ⑩その他

葛生ロータリークラブ活動報告②

2003～2004年度 国際ロータリー第2550地区

会長エレクト研修セミナー・地区チーム研修セミナー



会長エレクト研修セミナー・地区チーム研修セミナーとは、栃木県下全ロータリークラブの時期会長・リーダーたちの為の研修会です。今回は葛生ロータリークラブが開催担当となり、葛生高等学校にて全体会、分科会を行いました。

運営に当たり、葛生ロータリークラブ会員はすべての運営奉仕に携わりました。また、葛生高等学校インターアクトクラブの皆さんにもご協力いただきました。

平成15年3月8日(土)・9日(日)於:葛生高等学校



葛生ロータリークラブ活動報告③

町内清掃奉仕活動



平成15年11月18日(火)、早朝から葛生ロータリークラブ会員による町内清掃奉仕活動が行われました。今回はあくどプラザ周辺のゴミ拾い、落ち葉はきを中心に行いました。活動を終えた会員たちはみな清々しい気持ちになりました。



葛生ロータリークラブ活動報告④

地域のクラブ活動を支援

葛生ロータリークラブでは様々な野外活動・奉仕活動を通して社会性を育む青少年教育活動を支援しています。葛生ロータリークラブが支援しているボーイスカウト栃木連盟安蘇第2団(大川則道団委員長)では、幼児から高校生スカウト(男女)約70名が毎月隊集会を実施しています。詳しい活動内容を知りたい方、興味のある方はホームページ (<http://2.csx.jp/users/bsaso2/>) をご覧ください。



こちらの写真は今年で26回目となる、葛生ロータリークラブ会長杯婦人バレーボール大会表彰式の様子。今回は各チームにボールを寄贈させていただきました。